

府立学校の働き方改革に関するアンケート（教員対象）の結果について

1. 概要

（１）趣旨

教員の働き方改革について、客観的なデータに基づいた議論をすすめるため、基本的な勤務状況を把握するとともに、課題を明らかにするためのアンケートを実施。

（２）対象者

令和７年度に府立学校において、教諭等（首席、指導教諭、教諭、常勤講師）として勤務していた者。

（３）回答対象期間

・令和７年度の課業期間、かつ、季節的な業務や重大事案等への対応が生じていない平均的な週（平日５日＋休日２日）における業務等の状況を回答。

（４）回答方法

・ 在校等時間を記入。在校等時間とは、在校時間（出退勤スリット間の時間）及び、在校時間外で行う校外での業務・活動や研修及びテレワークの時間を加え、自己申告による自己研鑽等及び休憩時間を除いた時間を指す。

・ 回答対象期間において行った業務等の遂行に要した在校等時間を 15 分（0.25 時間）単位で回答。

・ 15 分未満の端数が生じる場合、端数を切り捨てて回答。

例 1) 授業 50 分×16 コマ＝13 時間 20 分 【回答】13.25 時間

【参考：時間換算の方法】

1～14 分→0.00 時間

15～29 分→0.25 時間

30～44 分→0.50 時間

45～59 分→0.75 時間

例 2) 会議 月曜日 30 分＋木曜日 1 時間＝1 時間 30 分 【回答】1.5 時間

※該当する業務等がない場合は 0（ゼロ）を入力。

※授業以外の各業務等の遂行に要した時間には、準備等に要した時間を含む。

・ 毎週ではなく、隔週や月に 1 度の頻度で実施する活動については、週当たりの平均について回答。

府立学校の働き方改革に関するアンケート（教員対象）の結果について

（５）業務等の分類

- ・授業
- ・授業準備・評価
- ・授業外の学習活動等
- ・担任業務
- ・その他指導等
- ・部活動
- ・会議
- ・調査・報告書
- ・その他の業務等

（６）集計結果

有効回答数 1,940 件（回答率:14.1%） ※前回回答率 10.3%

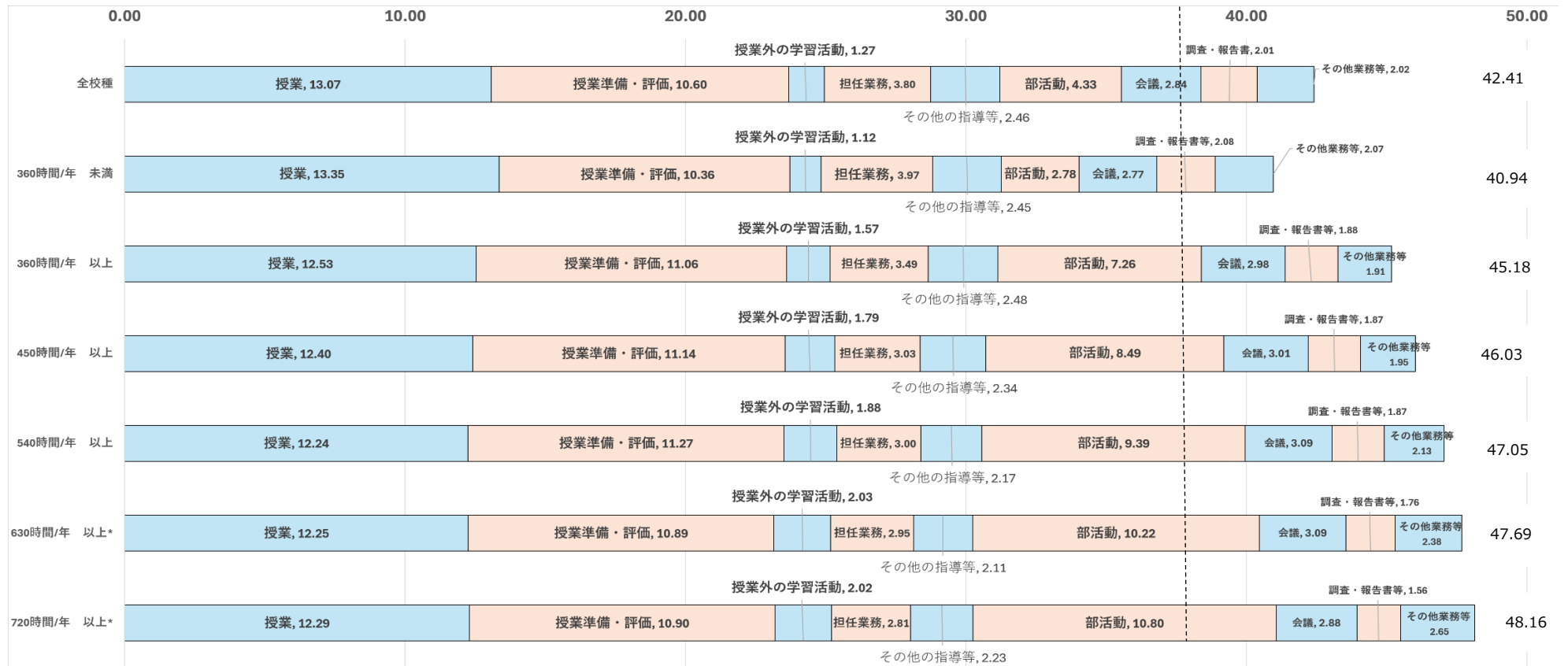
府立学校の働き方改革に関するアンケート（教員対象）の結果について

2. 週当たり在校等時間（アンケート結果）

（1）全校種

所定の週あたり勤務時間 38.75 h

（単位：h/週）



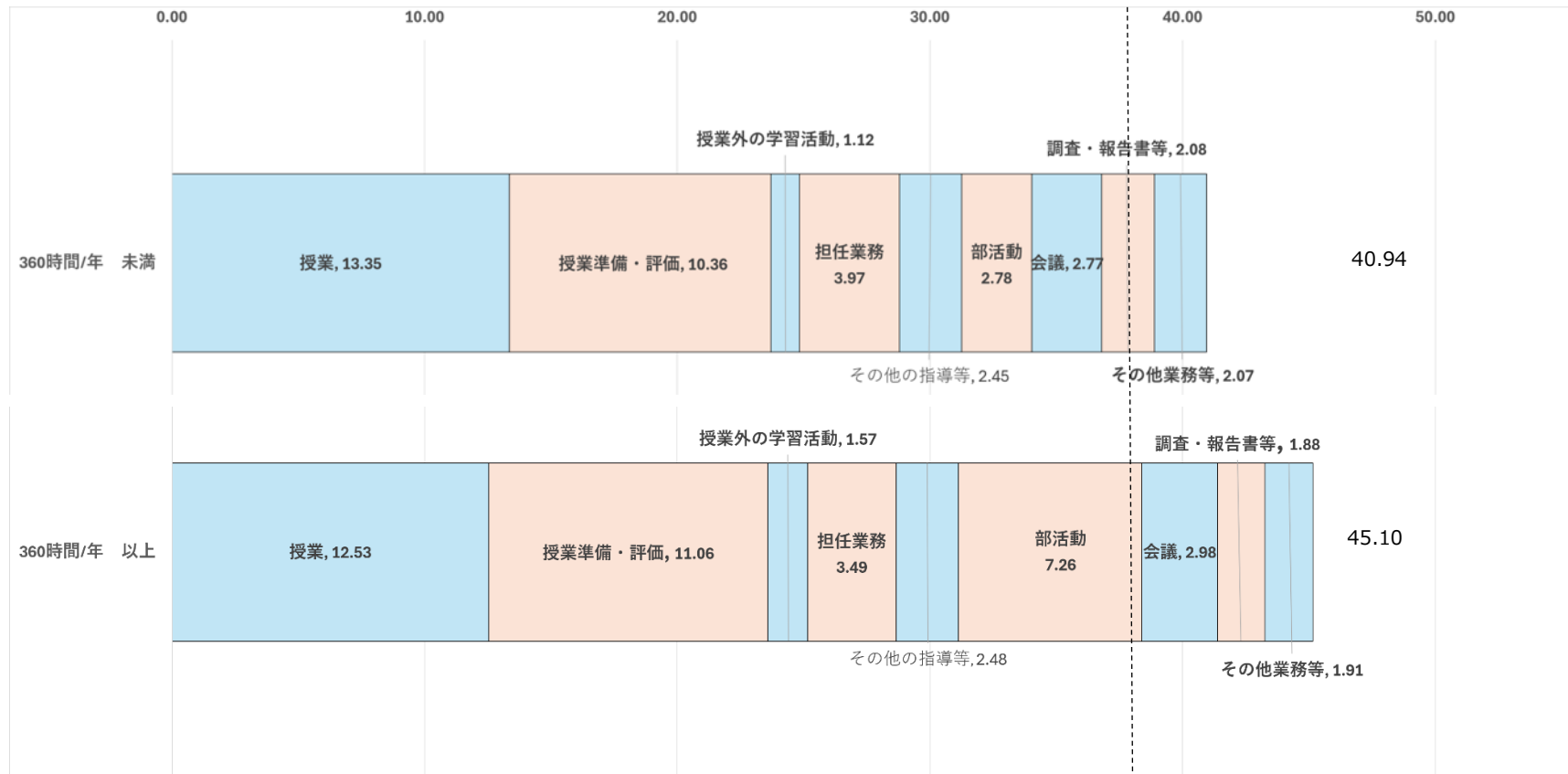
※左から「生徒に直接かわる業務等」、「生徒に直接かわらない業務等」の順に記載。

府立学校の働き方改革に関するアンケート（教員対象）の結果について

【360 時間未満・360 時間以上の区分の比較（全校種）】

所定の週あたり勤務時間 38.75 h

（単位：h/週）



【結果概要】

○学習に関する項目（授業、授業準備・評価、授業外の学習活動）

- ・ 授業は、360 時間/年以上と 360 時間/年未満との区分を比較すると、0.82 時間減少している。
- ・ 授業準備・評価は、360 時間/年以上と 360 時間/年未満の区分と比べて 0.7 時間増加している。
- ・ 授業外の学習活動は、360 時間/年以上の区分まで増加し、これ以降では減少傾向にある。

府立学校の働き方改革に関するアンケート（教員対象）の結果について

○学習以外の項目のうち、児童生徒に直接関わる項目（担任業務、その他指導等、部活動の合計）

- ・担任業務は、区分があがるにつれて減少傾向にある。
- ・部活動は、360 時間/年以上の区分では 360 時間/年未満の区分と比べて 4.48 時間増加し、区分が上がるにしたがって大きく増加している。

○学習以外の項目のうち、児童生徒に直接関わらない項目（会議、調査・報告書等、その他業務等）

- ・会議は、在校等時間が 630 時間/年以上の区分まで増加。以降は減少傾向にある。
- ・調査・報告書等は、在校等時間が増加するに連れて緩やかに減少傾向にある。

○360 時間/年以上の区分では 360 時間/年未満の区分と比べて、授業が減少し、授業準備・評価の時間と部活動の時間は増加している。

○特に部活動については、360 時間/年以上の区分では 360 時間/年未満の区分と比べて 4.48 時間増加している。

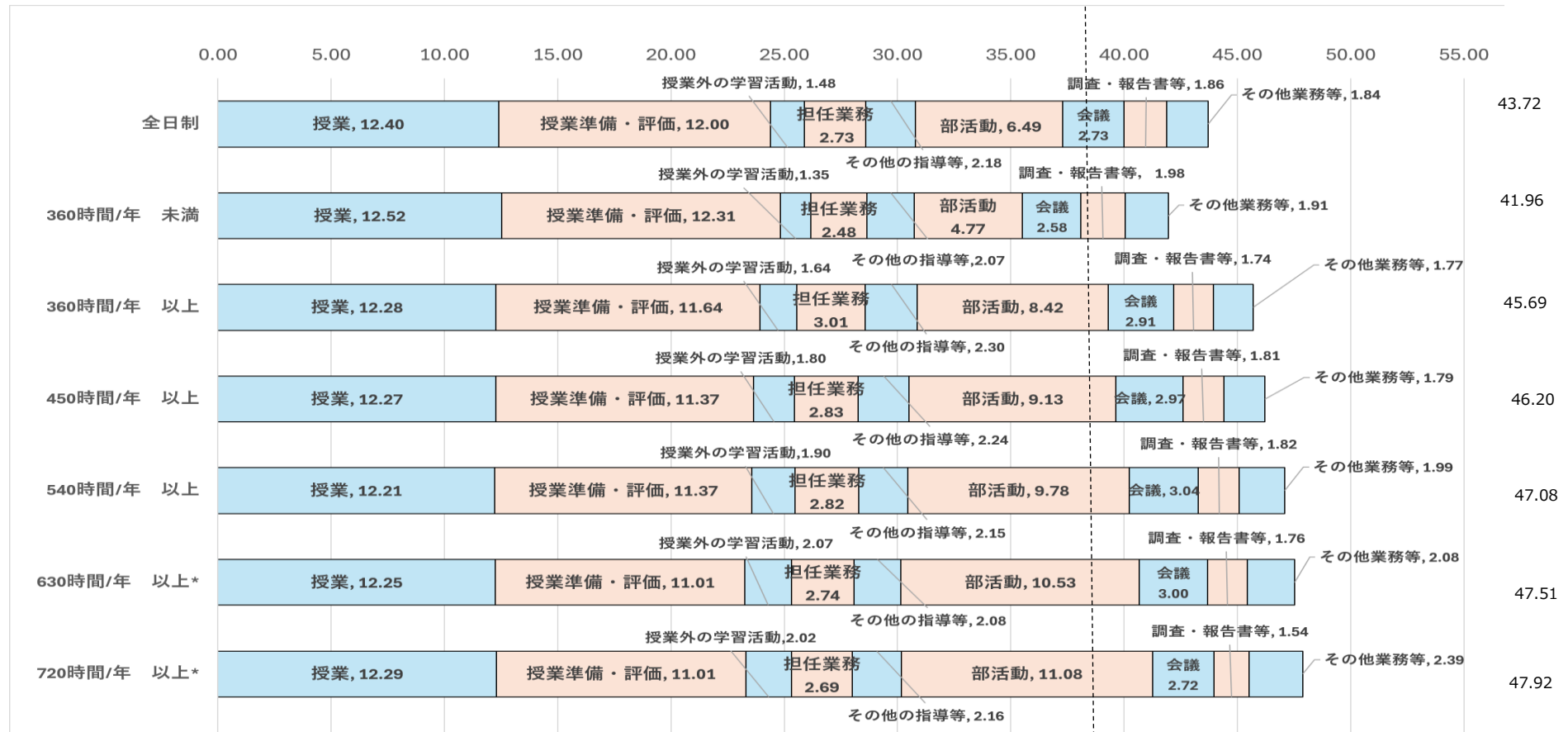
部活動の時間を除くと在校等時間の差は-0.24 時間（-約 14 分）。

府立学校の働き方改革に関するアンケート（教員対象）の結果について

（２）全日制

所定の週あたり勤務時間 38.75 h

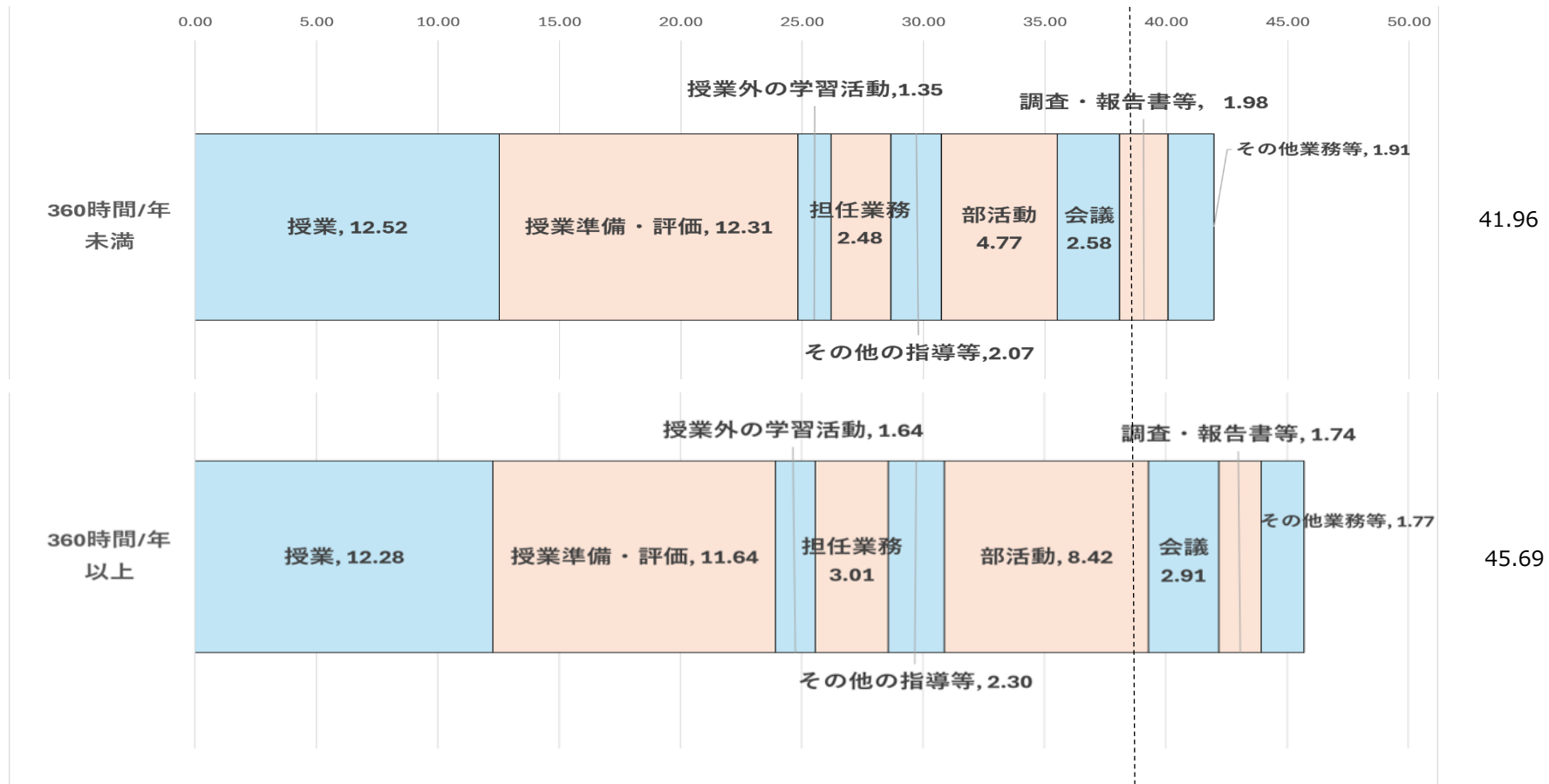
（単位：h/週）



府立学校の働き方改革に関するアンケート（教員対象）の結果について

【360 時間未満・360 時間以上の区分の比較(全日制)】

所定の週あたり勤務時間 38.75 h (単位: h/週)



【結果概要】

○学習に関する項目（授業、授業準備・評価、授業外の学習活動）

- ・ 授業の時間は、360 時間/年未満の区分が一番多く、それ以外では大きく変わらない。
- ・ 360 時間/年未満の区分では、授業準備・評価にかかる時間が、12 時間以上で多く、それ以外の区分は 11 時間台となっている。
- ・ 授業外の学習活動の時間は、630 時間/年以上の区分まで増加するに連れて緩やかに増加し、720 時間/年以上の区分以降は減少傾向にある。

府立学校の働き方改革に関するアンケート（教員対象）の結果について

○学習以外の項目のうち、児童生徒に直接関わる項目（担任業務、その他指導等、部活動）の時間

- ・担任業務の時間は、360 時間/年以上の区分では 360 時間/年未満の区分と比べて 0.53 時間増加している。
- ・部活動の時間は、360 時間/年以上の区分では 360 時間未満の区分と比べて 3.65 時間増加し、以降、区分が上がるにしたがって増加している。

○学習以外の項目のうち、児童生徒に直接関わらない項目（会議、調査・報告書等、その他業務等）の時間

- ・会議の時間は、360 時間/年未満から 360 時間/年以上にかけて増加するものの、540 時間/年以上を頂点に大きく変わらない。
- ・調査・報告書等は、360 時間/年未満から 360 時間/年以上にかけて減少し、その後横ばいになり、720 時間以上/年の区分では減少している。
- ・その他業務等は、360 時間/年未満と 360 時間/年以上の間を除いて、区分があがるに従って増加している。

○360 時間/年以上の区分は 360 時間/年未満の区分と比べて、授業・授業準備は減少、部活動の時間は大きく増加、それ以外の項目の時間は大きく変わらない。

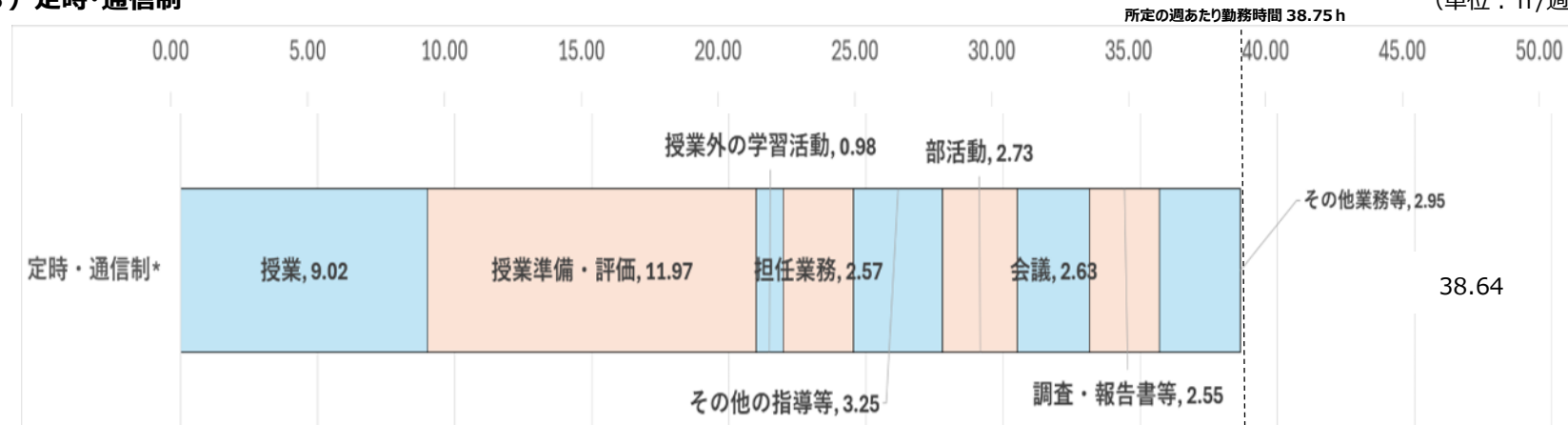
○最も大きな差がある項目は部活動であり、360 時間/年以上の区分では 360 時間/年未満の区分と比べて 3.65 時間増加している。

部活動を除くと在校等時間の差は 0.08 時間（約 5 分）となっている。

府立学校の働き方改革に関するアンケート（教員対象）の結果について

（３）定時・通信制

（単位：h/週）



○定時・通信制は、授業の時間に比べて授業準備・評価の時間が長い。また、その他の指導等の時間が長い。

（４）支援学校

（単位：h/週）



○支援学校は、授業準備・評価の時間に比べて授業の時間が長い。また、担任業務の時間が長く、部活動の時間が少ない傾向にある。

（※部活動がない学校も複数存在）